

# がん患者さんとご家族のための おしゃべりサロン

都立駒込病院  
サロン便り No. 88  
(2019年6月発行)



2019年5月10日に第95回“おしゃべりサロン”を開催しました。体験者8名（男性2名、女性6名）、家族1名（女性1名）、合計9名の方が参加されました。今回もがんになってからの生き方、家族との向き合い方、人間関係についてなど、お一人お一人がご自分の体験をもとに本音で語られ、深く気持ちを分かち合う場となりました。



サロンのお約束を確認して始まりました。

- ①自分のことは自分の言葉で話すこと。
  - ②他の方のお話は、善し悪しを評価しないで最後まで聴くこと。
  - ③サロンでのお話はこの場限りにすること。SNSへの投稿、録音、写真撮影は禁止。
- 以上の3点をお願いしました。

○父が病氣療養中、通院の付き添いをしたり両親の間を取り持ったりして大変だった。自分が病氣になった時は人に迷惑をかけない、すべて一人でやろうと決めて頑張ってきた。

○家族ががん患者で、みなさんの話を聞かせてもらうために時々参加している。このことをきっかけに、今は介護の仕事をしている。

○がんになって取捨選択ができるようになった。友人の中には病氣を機に離れた人もいるが、それなりの関係だったように思う。

○治療中は夫と分かり合えず、けんかになったことが少なくなかった。相手に期待すぎたことも原因のひとつだったように思う。主治医役になってもらい、コミュニケーションのとり方を練習できたのはありがたかった。

○医学的なことは医者に、愚痴や心の問題についてはネットやサロンに、日常的なことで助けが必要な時は主人に頼っている。あまり主人に期待すぎないことで、うまくいっていることもある気がしている。

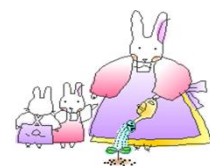
○ドナーさんから無償の愛を受け取ったと思っている。どんなことがあってもくじけてはいけなし、と全ての支えになっている。

○かりそめの関係か大事な関係か、と以前よりも気づけるようになったと思う。おとなしいと思っていた母が、治療中に自分に強い励ましの言葉をかけてくれた。病氣がその人の本音を露わにしてくれるのだと気づいた。

○がんになって家族との関わりが辛くなり、心の相談を受けた。そこで話すことの大事さを知った。男性は普段から話すことが少ないのでサロンの存在はありがたい。時間が合えばまた参加したい。

ごく一部ですがご紹介させていただきました。次回もスタッフ一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 次回・次々回のご案内



- 日時：毎月・第2金曜日（13時～15時）  
2019年7月12日（金）  
2019年8月9日（金）
  - 場所：都立駒込病院 本館3階  
患者サロン（中央エレベーター横）
  - 対象：主にがん患者さん・ご家族  
どちらの医療機関にかかっているも参加できます。
- \* 予約はいりません / 参加費は無料です